

教 養

我が国の覚醒剤乱用検挙者数は減少の一途をたどり、令和4年には6,289人にまで減少、ピークであった平成9年と比較して約三分の一の検挙数となった。

しかしながら、覚醒剤事犯の再犯者率は依然として高い水準で推移しており、また、近年では大麻事犯の20歳代や20歳未満の検挙人員が増加し続けるなど、薬物乱用については引き続き予断を許さない状況である。

覚醒剤や大麻等の薬物乱用は、精神や身体に悪影響を及ぼすだけでなく、社会に与える影響も大きいため、薬物乱用の根絶を図る必要がある。

そこで、次の問いに答えなさい。

問1 薬物乱用が個人や社会に与える影響について述べなさい。

問2 薬物乱用の根絶を推進するために社会全体としてどのような取組みを行うべきか、あなたの考えを述べなさい。

專 門

〔問 1〕 海上衝突予防法に関する記述で、次の1～10のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- 1 機関が故障したため他の船舶の進路を避けることができない船舶は、「操縦性能制限船」である。
- 2 航行中、自船が追越し船と確かめることができない場合は、追越し船でないと判断しなければならない。
- 3 航行中、現在の針路又は速力で航行すると、他の船舶と衝突のおそれがあると判断したため、大幅に速力の変更を行った。
- 4 霧中航行中、船首方向に他の船舶をレーダーのみにより探知し、このまま進行すれば衝突する可能性があるとは判断したため、直ちに機関を後進にかけて他船との接近を避けた。
- 5 長さ12メートル未満の動力船は、狭い水道等の内側でなければ安全に航行することができない他の動力船の通航を妨げてはならない。
- 6 「マスト灯」の射光範囲は、正船首方向から各げん正横後22度30分までの間であり、「船尾灯」の射光範囲は、正船尾方向から各げん67度30分までの間である。
- 7 長さ50メートル以上の船舶が表示しなければならない「マスト灯」の視認距離は6海里以上、「船尾灯」の視認距離は3海里以上である。
- 8 えい航物件の後端までの距離が200メートルを超える場合は、最も見えやすい場所にひし形の形象物1個を掲げなければならない。
- 9 「短音」とは、約1秒間継続する吹鳴で、「長音」は、2秒以上6秒以下の時間継続する吹鳴をいう。

10 航行中の動力船は、対水速力を有しない場合は、約2秒の間隔の2回の長音を2分を超えない間隔で鳴らすことにより汽笛信号を行わなければならない。

〔問 2〕 海上交通安全法に関する記述で、次の1～10のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- 1 航路を航行中、他の船舶の右げん側を追い越すために、長音2回に引き続く短音1回の汽笛を用いた。
- 2 長さ50メートル以上の船舶は、定められた地点間を航行するとき、航路の区間をこれに沿って航行しなければならない。ただし、海難を避けるため又は人命若しくは他の船舶を救助するためやむを得ない事由があるときは、この限りでない。
- 3 航路外から航路に入ろうとする船舶（漁ろう船等を除く。）は、航路をこれに沿って航行している他の船舶と衝突するおそれがあるときは、当該他の船舶の進路を避けなければならない。
- 4 夜間、航路外から航路に入る際、自船の進路を他の船舶に知らせるために、衛星電話による信号を用いた。
- 5 危険物積載船は、航行し、停留し、又はびよう泊しているときは、第1代表旗とB旗を連掲し、一定の間隔で毎分120回以上140回以下のせん光を発する紅色の全周灯1個を表示しなければならない。
- 6 航行中、付近の船舶が救助を求めていたため、航路内であったがびよう泊し、救助活動にあたった。
- 7 昼間、紅白の吹流しを表示して航行している船舶は、工事作業船であり、灯火は一定の間隔で毎分120回以上140回以下のせん光を発する緑色の全周灯1個を掲げなければならない。

- 8 水島航路では全区間12ノットの速力制限が定められているが、中ノ瀬航路にあっては10ノットの速力制限が定められている。
- 9 一定の間隔で、毎分180回以上200回以下のせん光を発する緑色の全周灯1個を表示している船舶は、緊急用務を行う船舶である。
- 10 黒色円筒形の形象物を2個連掲している船舶は、長さ200メートル以上の船舶である。

〔問 3〕 次の文章は、港則法で定める航路及び航法についての条文の一部を抜粋したものであるが、空欄（ A ）～（ J ）に当てはまる語句を下の語群ア～ノの中からそれぞれ1つ選びカタカナで答えなさい。

<p>第三条 2 この法律において「 A 」とは、喫水の深い船舶が出入できる港又は（ B ）が常時出入する港であつて、政令で定めるものをいう。</p> <p>第四条 船舶は、（ A ）に入港したとき又は（ A ）を出港しようとするときは、国土交通省令の定めるところにより、（ C ）に届け出なければならない。</p> <p>第十二条 船舶は、航路内においては、次に掲げる場合を除いては、投じようし、又はえい航している船舶を放してはならない。</p> <p>一 （ D ）を避けようとするとき。</p> <p>二 運転の自由を失つたとき。</p> <p>三 人命又は急迫した危険のある船舶の救助に従事するとき。</p> <p>四 第三十一条の規定による（ C ）の許可を受けて工事又は作業に従事するとき。</p> <p>第三十七条 何人も、港内においては、相当の注意をしないで、（ E ）の付近で（ F ）し、又は火気を取り扱つてはならない。</p> <p>第三十八条 （ A ）内の国土交通省令で定める水路を航行する船舶は、（ C ）が信号所において交通整理のため行う信号に従わなければならない。</p> <p>第三十八条 2 （ G ）又は長さが国土交通省令で定めるトン数又は長さ以上である船舶は、前項に規定する水路を航行しようとするときは、国土交通省令で定めるところにより、（ C ）に次に掲げる事項を通報しなければならない。通報した事項を変更するときも、同様とする。</p> <p>一 当該船舶の（ H ）</p> <p>二 当該船舶の（ G ）及び長さ</p> <p>三 当該水路を航行する（ I ）</p> <p>四 当該船舶との（ J ）手段</p> <p>五 当該船舶が停泊し、又は停泊しようとする当該（ A ）の係留施設</p>
--

語群

ア 関係機関	イ 港長	ウ 排水トン数	エ 予定時刻	オ 特定港
カ 停船	キ 交信	ク 外国船舶	ケ 海難	コ 連絡
サ 5千トン以上の船舶	シ 大きさ	ス 錨泊船	セ 指定港	ソ 喫煙
タ 総トン数	チ 油送船	ツ 障害物	テ 速力	ト 名称
ナ 故障船舶	ニ 船名	ヌ 港湾局	ネ 国際港	ノ 重さ

〔問 4〕 ディーゼル機関等に関する記述で、次の1～10のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- 1 ディーゼルエンジンが燃焼不良を起こす原因としては、燃料ポンプが破損して燃料の供給がされなくなったことが考えられる。
- 2 ディーゼルエンジンが燃焼不良を起こす原因としては、燃料噴射ノズルが詰まって燃料が正常に噴射されなくなったことが考えられる。
- 3 エンジンの運転中は、エンジンオイルの量を正確に計測することが出来ないので、オイル量の計測はしない方がよい。
- 4 エンジンの運転中は、オイルパン内の圧力が低下するので、オイル量の計測はしない方がよい。
- 5 間接冷却式エンジンの冷却水系統に設けられているサーモスタットの役割は、エンジンの温度に応じて、冷却清水と冷却海水との混合割合を制御することである。
- 6 間接冷却式エンジンの冷却水系統に設けられているサーモスタットの役割は、冷却清水の温度に応じて、冷却海水の船内取り入れ量を制御することである。
- 7 間接冷却式エンジンの冷却水系統に設けられているサーモスタットの役割は、エンジンの温度に応じて、冷却海水の船外への排出量を制御することである。
- 8 冷却海水ポンプに用いられている合成ゴム製のインペラの交換について、乾燥による破損防止のため、キングストンバルブを開いた状態で行った。
- 9 冷却海水ポンプに用いられている合成ゴム製のインペラの交換について、インペラが劣化するとエンジンのオーバーヒートの原因になるので、定期的に交換する。

10 冷却海水ポンプに用いられている合成ゴム製のインペラの交換について、冷却海水ポンプを開け、インペラの点検をしたところ、羽根に亀裂や欠けがあったので、まだ使えそうだったが交換した。

〔問 5〕 海難事故発生時及び人命救助に関する記述で、次の1～10のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- 1 小型船舶で航行中、浅瀬に乗り揚げたが、直ちにエンジンを使用すると船体が振られてさらに乗り揚げるおそれがあるため、使用しなかった。
- 2 火せんは、赤色の星火を発する救命設備であり、自己点火灯は手持ちで使用する炎火を発する救命設備である。
- 3 小型船舶で航行中、浅瀬に乗り揚げたため、第一に船体の破損状況を調べ、その後エンジンを停止した。
- 4 小型船舶で航行中、浅瀬に乗り揚げたため、まずエンジンを停止してから船体の破損状況を確認し、船位や潮汐の調査を行った。
- 5 夜間航行中、落水事故が発生したため、直ちに自己発煙信号を連結したライフブイを落水者の方向に投げ入れ、救助作業を行った。
- 6 びょう泊してエンジンを止めたが、レーダーやGPSなどの航海計器は事故防止のため、常に作動させておいた。
- 7 小型船舶で航行中、火災が発生したため、火元が風上側になるように操縦し、消火活動に努めた。
- 8 船が転覆し、海上を漂流した際、油や船体などの漂流物から身を守るために、これらの風上側に移動して避けた。

9 船首付近から海中に人が落ちたため、直ちに舵を人の落ちた反対側にとった。

10 遭難して海上を漂流した場合は、泳ぎやすくするために衣服を脱いで身軽になり、発見されやすいように大きな浮遊物の近くに集まる。

〔問 6〕 次の文章は、船体各部の名称に関する記述であるが、空欄（ A ）～（ D ）に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

船体主要部分のうち、（ A ）は船体の縦方向の強度を保つ部材であり、（ B ）は船体の外板を支え、横方向の強度を保つ部材である。
（ C ）は主として甲板を支える部材であり、（ D ）は船体の最後部を構成する板状の部材で、船外機や船内外機のドライブユニットが取り付けられる。

〔問 7〕 次の文章は、小型船舶操縦者と小型船舶に関する記述であるが、空欄（ A ）～（ J ）に当てはまる数字又は語句をそれぞれ答えなさい。

1 小型船舶とは、総トン数（ A ）トン未満の船舶と、一定の条件を備えた総トン数（ A ）トン以上のスポーツ及びレクリエーションのみに用いられる長さ（ B ）メートル未満の船舶及び特定漁船をいう。

2 平成15年6月1日に（ C ）法が改正され、「（ C ）及び小型船舶操縦者法」となり、現行の小型船舶操縦士免許制度がスタートした。

3 免許区分は、距離（ D ）海里を境にして一級小型船舶操縦士と二級小型船舶操縦士に大別され、水上オートバイ専用の（ E ）小型船舶操縦士免許がある。

4 令和2年7月1日、(C) 及び小型船舶操縦者法施行規則が改正され、総トン数 (A) トン以上 (F) トン未満であって、出力 (G) キロワット未満の推進機関を有する長さ (B) メートル未満で、沿海区域の境界からその外側 (H) 海里以遠を航行しないこと、操舵位置において、一人で操縦を行う構造であること等、一定の要件を備えておれば特定漁船として小型船舶の定義に加えられた。

5 平成15年6月1日以降に、一級又は二級小型船舶操縦士免許を新規に取得した者で、(I) や (J) など人を輸送する小型船舶の船長になろうとする者は、「小型旅客安全講習」を受講して特定操縦免許を取得する必要がある。

講習の内容は、海難発生時における措置、救命設備、人命救助などの内容を含むものである。

[問 8] 荒天準備に関する (A) と (B) の記述について、組み合わせとして正しいものは1～4のうちどれか。番号で答えなさい。

(A) デッキ上の移動物は、海中に転落しないように船内に格納するか、ロープなどで縛って固定する。

(B) 舷窓、ハッチ、出入口等の開口部を確実に密閉し、水が船内に入らないようにするとともに、ビルジポンプの作動状況をあらかじめ確認する。

1 (A) は妥当であり、(B) は妥当でない。

2 (B) は妥当であり、(A) は妥当でない。

3 どちらも妥当である。

4 どちらも妥当でない。

〔問 9〕 長距離航海中の注意事項に関する（A）と（B）の記述について、組み合わせとして正しいものは1～4のうちどれか。番号で答えなさい。

- （A） 夜間や視界不良時には専任の見張り員を配置し、時間を決めて定期的に操船者を交代させる。
- （B） 常に正横よりも前方の見張りに専念し、自船の船位を確認しながら法規を遵守して操船しなければならない。

- 1 （A）は妥当であり、（B）は妥当でない。
- 2 （B）は妥当であり、（A）は妥当でない。
- 3 どちらも妥当である。
- 4 どちらも妥当でない。

〔問 10〕 膨張式救命いかだの取り扱い上の注意事項に関する（A）と（B）の記述について、組み合わせとして正しいものは1～4のうちどれか。番号で答えなさい。

- （A） 救命いかだは、風雨による劣化や船体の動揺による損傷を防ぐため、船倉にいれ固定しておく。
- （B） FRPコンテナに収納されているものは、内部のいかだが蒸れないように、時々コンテナを開き通風換気を行い、自動離脱器については錆び付かないように錆び止めペイント等を塗っておく。

- 1 （A）は妥当であり、（B）は妥当でない。
- 2 （B）は妥当であり、（A）は妥当でない。
- 3 どちらも妥当である。
- 4 どちらも妥当でない。

〔問 11〕 4ストロークガソリンエンジンにおいて、スターターモーターは回転するが、着火爆発しない場合の点検箇所に関する（A）と（B）の記述について、組み合わせとして正しいものは1～4のうちどれか。番号で答えなさい。

（A） 点火プラグの電極すきまは適当か、また点火プラグの汚れは無いかを確認し、駆動するVベルトの張りが適切であるか点検した。

（B） ディストロビューターに焼損及び汚損はないか。ハイテンションコードのターミナル接続部の接触は良好であるか点検した。

1 （A）は妥当であり、（B）は妥当でない。

2 （B）は妥当であり、（A）は妥当でない。

3 どちらも妥当である。

4 どちらも妥当でない。

〔問 12〕 A港から150海里離れたB港まで往復しようとする場合、船の平均速力を30ノット、その時の1時間当たりの燃料消費量を150リットルとすれば、燃料消費量は何リットルとなるか。ただし、風潮流の影響はないものとする。

〔問 13〕 30分当たり15リットルの燃料油を消費する船が、12海里を航走し燃料油を15リットル消費したときの船の速力は何ノットとなるか。ただし、風潮流の影響はないものとする。

〔問 14〕 速力36ノットで27海里先の港まで航走した場合の所要時間は何分か。ただし、風潮流の影響はないものとする。